

4月7日(水)始業式、8日(木)入学式を終え、中学校176名、高校676名、全校852名での新学期がスタートしました。9日(金)からの1週間は、新たな学校生活に入る準備期間としてオリエンテーションが行われました。特に中学1年生、高校1年生にとっては環境が変わっての生活が始まります。真剣な眼でこの期間を過ごしたようです。が、詰込みすぎて少々疲れ気味だったかなあ。

各学年で「校長講話」の時間をいただきました。高校1年生、中学1年生に話したことの一部を記してみました。

「人間万事塞翁が馬」

高校1年生の講話の際、「『人間万事塞翁が馬』という故事成語について触れようと思いますが、誰かこの言葉の意味を知っている人？」と問うと、「はい！」と目の前の男子が挙手をしました。素晴らしいと思いながらマイクを向けると、「間違っているかもしれませんが」と前置きして、「昔、中国に塞翁という老人がいました。ある時、大切にしている馬が逃げてしまいました。村人たちはそのことを気の毒がっていましたが、塞翁は『今にいいことがあるよ』と言いました。その馬は隣村から駿馬を連れてきました。村人は大いに喜びました。すると塞翁は『不幸なことが起こるだろう』言いました。駿馬に乗った息子が落馬をして大怪我を負ってしまったのです。村人は悲しみました。また、塞翁は『福が来るよ』と言いました。戦争が起こり、若者のほとんどが駆り出されて死んでしまいましたが、息子だけが戦死しなくて済みました。このことから、簡単に喜んだり悲しんだりしない方がいい、という意味です」と話してくれました。思わず「おお」と声を上げてしまいました。次に拍手が起こりました。完璧です。

すなわち、この「人間万事塞翁が馬」という故事成語は、人生において、幸不幸はなかなか予測することができない。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわからないので、一喜一憂しない方がいい。という意味です。

「高校は推薦入試と一般入試があったので、本校に入学してきた生徒の半分以上の人は本校を目指して入学してきたと思っています。しかし、何割ぐらいの人だろうか、本当は違う高校に行きたかったのに、と思ってこの場にいる人がいるで



しょう。だけど、不本意であったにしても、新たな環境、新たな仲間、新たな先生方と出会ったことによって、これまでとは違った景色や自分に会えることがプラスに働くことが意外と多いんだよ。一喜一憂せずに、切り替えて前向きになってみるのが大切だよ。これを『ご縁』をいただくという言い方になるかもしれませんが」と生徒に話した後、自分自身の話に及んでいました。

「岩手県を出て、学生時代を東京で過ごし、縁があって広島に赴いて早37年。まさか西に向いて自分の居場所があったとは。この間、いろいろな出会いがあり、たくさんの方から学ぶことができました。辛いことも多々あったけど、出会いとご縁は私の心を太くしてくれました。まさに何が起きるかわからないのです。何かに導かれながら“今、ここにいる”こと、“生かされている”ことを実感し、目指すものを定めて歩いていきたいものです。

高校1年生の講話で、こんなことを話しましたが、心の片隅に留めておいてくれたら有難いです。さて、中学校1年生。「『人間万事塞翁が馬』を知っている人？」と問うと、遠慮深げにある男子が手を上げたましたが、その意味は惜しくも違っていました。丁寧に言葉の意味を説明した後、「これから未来に向けて、たくさんの方を経験して欲しい。ひょっとしたら失敗の方が多いかもしいけど、それは学びだよ。それは、自分を大きくしてくれるよ」と話し、結びました。

高校生は3年間、中学生は6年間、それぞれの学びが始まりました。どんなふう成長していくのか、楽しみで仕方ありません。